

大阪市立東高等学校

ASEP2018 リフレクションレポート

国際交流プロジェクトの継続性に関する考察

大阪市立東高等学校 池田明

1.国際交流プロジェクトを続けるために

20 年を迎えようとしている ASEP と一足先に 20 周年となった WYM。長きにわたって継続的に行われてきたこれらの国際交流プロジェクトの成果と影響は、すでに多方面にわたっています。中でもこのプロジェクトに関わって世界中の多くの学校では、直接的に学生・生徒の貴重な学びや育ちを感じられています。これが、かくも長きにわたる継続性を保証してきた要因であると思われます。

一方で、プロジェクトを継続的に発展させていくためには、さまざまなしかけや工夫が必要です。その継続性を生み出してきたポイントをいくつか取り上げて考えてみようと思います。



2.柱となるコンテンツと情報共有

ASEP と WYM は台湾・日本でそれぞれ年一回開催される国際交流大会です。その柱となる部分は国際協働プレゼンテーションです。実は基本的なしかけの部分として、このプレゼンテーション大会を核に据えているところが重要です。海外の仲間と組んで発表を行うことが必要となるため、必然的に事前交流が行われます。また、ともに発信するという作業を経験することで絆が深まり、事後の交流の促進もしています。

日本の学校における国際交流は、例えば姉妹校などの特定の海外にある相手校との間だけのクローズな環境下で相互交流を行う例がまだまだ多いのが現状です。こういう環境下では、例えば相互に海外の相手校を訪問したとしても、浅いレベルでの交流にとどまり、事前・事後の交流が活発に継続的に行われないことが多く見られます。ASEP と WYM においても、参加校の中には姉妹校提携をしている組み合わせで期間中の交流と発表を行うチームもいくつかありますが、クローズな状況ではなくプレゼンテーション大会というオープンな場に臨むために、その事前事後の交流の様子も含めて、他の参加校との情報共有が図られ、またそれらの情報を活かしつつ深いレベルの交流を実現しています。

3.教員スタッフの役割

大会に関わる教員スタッフの役割を大きく三つあります。

1)参加学生・生徒の引率

2)プレゼンテーションと交流活動の指導監督

3)大会の企画運営

1)の引率に関しては、学校の教員=teacher としての役割で、大会参加の基本的要件となります。つまり、各チームの参加者について、責任を持っている大人が必要であるということです。大会会場まで各チームの移動手配なども原則として行います。

2)の指導監督は、大会の柱であるプレゼンテーションを実施するためのものです。これに関してのスタンスは各チームまちまちで、またこれを強く縛って形式化することはしていません。必要なデータを期限までに提出させる。大会のルールを守って発表させる。事前事後の交流やオーディエンスとしての聞く態度についての指導を行う。など、各チームの事情や環境に合わせて、指導監督を行っています。

3)の企画運営は、すべての参加教員が同レベルで携わっている者ではなく、教員以外のメンバーも交えてのコアスタッフらが実行委員会の中核となって全体をアレンジしコントロールしている感じです。

今後の課題として、このコアスタッフとして動ける人員の拡がりと継続的確保が必要です。長く携わるコアスタッフはまだまだ元気に活躍していますが、未来永劫続けられるわけではありません。新たな世代へとどんどんバトンパスができる組織でなければなりません。今のところこの人員面の確保が完全にうまくいっているとは言い切れません。さらなる10年、次の10年のために中心となって動ける人材を見つけ、育てていかねばならないと思われれます。

4.大会スケジュール

海外から ASEP・WYM 参加するチームは、だいたい一週間前後の滞在日程で渡航しています。チームの事情に合わせて滞在日程はフレキシブルに調整されます。滞在中に、協働プレゼンテーションの最終確認を行い、これを大会本番で実施するのが主目的です。そのほかに、滞在する学校での体験や、ホームステイを行うチームではホストファミリーとの交流も行います。国際交流プロジェクトのメインとなるのは言うまでもなくこの現地での滞在期間です。一定の滞在期間を確保できるよう、WYM 夏休み期間に、ASEP は冬休み期間に設定されています。

大会の開催スケジュールに合わせて、概ね一年前、つまり大会開催時に次回の大会の準備・打ち合わせを開始します。日台相互を中心とする学校間の交流活動が継続的に続けるためには、このプロジェクトが継続的に毎年開催できていることが重要です。つまり、さまざまな条件がある中で、企画し調整し続けることが必要です。

5.まとめ

これらのポイントに代表されるように、ASEP&WYMの国際交流プロジェクトは、さまざまな努力と調整の上で継続性が保証されています。20年の継続期間の間では、さまざまな困難もありましたが、その都度、これまでの交流の成果と結果に基づいて参加各校の教員スタッフを中心とした話し合いと調整で乗り越えてきました。それらはすべて参加する学生・生徒の体験的な国際理解の機会を設け、それが実効的に昨日している手応えが強く感じられるからできることに他なりません。この素晴らしいプロジェクトをさらに永く継続させていけることを切に望んでいます。



初めての海外研修

英語科 一年 塚本 毬友

今回の台湾研修で初めてこのプロジェクトに参加した私は、**初の海外**ということもあり、飛行機やプレゼンテーションなどの不安が沢山ありました。しかし、それ以上にホストファミリーとの生活や日本との文化の違いにワクワクしていました。

飛行機が台湾に着陸してから、沢山の台湾の学生と先生方が歓迎してくれているのを見て「ちゃんと溶け込めるかな…」と心配していた気持ちがいつの間にかふっとんでいました。

台湾の学校は私たちが通っている日本の学校とは全然違って、本当に驚きました。授業は先生がマイクとプロジェクターを使っていて、中にはサンタさんの帽子をかぶりながら授業をしている先生もいました。また、教室の壁や柱、エレベーターの扉にいろんなテイストの絵がかいてあることにも衝撃を受けました。夜になって、ホストファミリーの家に着いた後、みんなで一緒にトランプで大富豪をして遊びました。その時に日本の学校のことや自分の家族について聞かれ、台湾に来てとても驚いたことも沢山話しました。

二日目の朝になると飛行機疲れと緊張からか、声が枯れ、鼻水が止まらなくなり完全に風邪をひいていました。それに気づいたお母さんとお父さんが日本の風邪薬を渡してくれて本当に安心したし、助かりました。

学校でのプレゼンテーションの練習はなかなかハードなもので、「マイクをちゃんと口に近づけて！」「ジェスチャーをもっとおおげさに！」と細かく先生がアドバイスを下さって、それをもとに自分達でも内容を確認しあったり出来たのでとてもやりがいがあるものを感じました。疲れていてもみんなの熱意に励まされ、最後の発表の時も全力を出し切ることができました。

プレゼンテーションが終わった後、みんなでナイトマーケットに行きました。そこにはとても沢山の人がいて少し怖かったけどみんなで手をつなぎながら屋台を回ったりしてとても楽しかったです。



最後の一日は全員で高雄の観光名所を沢山回りました。美麗島という駅は特に感動しました。その駅の記念のコインもくれて、本当に嬉しかったです。

帰りの空港に着いてから sherry が泣きながら「I love you!! You are my sister!」

と言ってくれた時はとても嬉しくて、**帰るのが本当に寂しく感じました。**

今回の ASEP の台湾研修を通じて沢山の貴重な経験をして、自分自身、とても大きな成長が出来たかなと思います。**参加できて良かったです！ありがとうございました。**

初めての海外へ行って

1 年 E 組 杉本光莉

私にとって、台湾は初めての海外だったので出発する前は内心すごく緊張していました。自分にとって海外はとてもハードルが高いもので、英語が通じるか、食べ物はおいしいか、フォストファミリーは優しいかなど、本当に楽しく過ごせるのかと胸がドキドキしていました。

でも、飛行機があつという間に台湾に着陸しても私には全く外国にいるという実感は湧きませんでした。その時に、海外へ行くことはそんなに緊張しすぎなくてもいいことなんだとやっと気持ちが楽になってきて、台湾にいることを楽しもうという気分になりました。

私は夏の時もこのプログラムに参加していたので、パートナーのおとわとは友達になっていたのですが、今回台湾へ行ったことでまだ私が知らなかったおとわの一面を見ることができました。まず一番に思ったのは家族同士がとても仲がいいことです。いつでもにぎやかなあたたかい雰囲気私を迎え入れてくれたのを覚えています。みんなで一緒に食べたおいしい小籠包のことも、バイクの後ろに乗って夜の台湾の眩しい景色を見たことも、朝ご飯を学校で食べたことも、全部楽しかった思い出です。一生忘れません。

台湾は凄く暑かったのが印象的です。冬でも日本の夏ぐらい暑いと感じました。なので、12 月なのにお店へ行って台湾で有名なかき氷を食べました。種類が豊富で、日本人用のメニューもあったので、日本人観光客が多いんだなと感じました。私は、かき氷が販売されていることにも、かき氷の上にマンゴーが乗っていたことにも驚きました。そんなに暑い台湾では雪は高い山でも少ししか降らないらしく、日本の雪を見せてあげたいな、と思いました。私がちょうど台湾に行っていたときに雪が大阪で降ったらしく、次に雪が降った時には雪の写真をメッセージで送ろうと思います。

カルチャーショックもたくさん受けました。なんといってもトイレトペーパーを流さないか流すかどうかで一番迷いました。何も表示がないトイレで一人で困っていたこともありました。台湾にある本屋なのに、**大量に日本語で書かれている本が販売されていたのにも衝撃を受けました。**日本の本が中国語でノベライズ版になっているのも置いてあったので、もともと日本語版で大好きな本をお土産に買いました。読み比べると結構意味を理解することができたので、いくつか中国語の意味を覚えることができました。

初めての海外で、日本と似ている部分、違った部分たくさんを経験することができて、すごくいい思い出を作ることができました。日本に帰る空港で、**おとわがまた台湾に遊びにきてね**と言ってくれました。また絶対にあの家族に会いに行きたいです。



台湾 普通科2年 中谷桐

この台湾への渡航は、私にとって初めての海外渡航でした。なので、行く前はとても不安で、楽しみだと思えませんでした。ですが、日本に帰ってきた今では**本当に参加して良かった**なと思っています。そうおもえた理由は、**みんなすごく温かく迎えてくれたから**です。

まず初めに、ホームステイについて書きます。私は、あまり英語を話すのが得意ではないので、うまくコミュニケーションを取れるか、本当に心配でした。でも、ホームステイ先の子がすごくフレンドリーで、絶えず話題をふってくれました。本当に嬉しかったし、そのおかげでずっと楽しかったです。その子は日本のアニメや太鼓の達人のゲームがすごく好きで、そのことについてたくさん話をしました。**自分の生まれ育った国でない国を、こんなにも好きでいられるのが、すごく素敵だな**と思いました。それと同時に、日本人としてとても誇らしくなりました。改めて、日本の文化のすばらしさに気づいた瞬間でした。

次に、プレゼンテーションについてです。思っていたよりも規模が大きくて驚きました。こんなにもたくさんの人の前で英語を話すことは初めてだったので、とても緊張しました。無事に終わることができて本当に良かったです。**千里国際の子と仲良くなれたことは本当に嬉しかったです。**色々な場面で助けてもらいました。また日本でも遊べたらなと思います。

私がこの5日間で感動したことは、ご飯が美味しかったことです。行く前、友達にあまりおいしくないと言われていたので、すごく不安でした。でも全然違いました。特に屋台で食べたステーキがすごくおいしくて驚きました。また台湾に行って色々なものを食べたいです。

この5日間はとても一瞬でした。私の人生の中で一番たくさんのことを学べた5日間で

した。また機会があれば参加したいなと思います。



“The most important thing is keep in touch”

Osaka City Higashi SHS

Haruki Uragami

This was my first time to go abroad. So I was just nervous before I went to Taiwan. However host family, teammates, and friends gave me kindness. Because of I could relax and enjoy stay there.

I have one thing that I felt happy. That is I could make new friends. I joined WYM last summer so I had some Taiwanese friends. But there were lots of new encounters this time. So I was very happy.

That will be wonderful thing in my life. I'll make this experience available to my future.

I would like to cherish this experience and friends.



英語科 1年 吉川 萌歩

私は今回の ASEP に参加して、大きく二つを学びました。

一つ目は、外国人の友達を持つことの大切さです。理由は、異文化について身をもって体験することで、視野が広がるからです。私は滞在中に、いくつかの中国語を台湾生に教わりました。その中で、日本語と発音が似ているのもありました。しかし、中国語は日本語にはない発音方法があったり、発音 Up Down が違ったりして、とても悪戦苦闘しました。でも、台湾生が優しく教えてくれたので、上手く言えるようになりました。私はその体験を通して、台湾生と英語以外でも話せるようになりたいと、中国語に興味を持って、帰国後から独学で中国語を学び始めました。これは、海外に旅行しただけでは得られないことで、台湾生と友達になったからこそ得ることができたと思いました。

二つ目は、日本との設備の違いです。例えば、トイレ、校内環境です。トイレについて驚いたのは、トイレットペーパーがないところが多いところと、和式トイレが多いことです。トイレットペーパーに関しては特に、日本では当たり前にあるものなので、帰国後からは、当たり前と思わずに、必要な分だけ、なるべく節約しようと心がけるようになりました。校内環境について驚いたのは、日本より敷地が大きく、クラブも多く、校内設備がとても整っていることです。特に校内環境に関しては、敷地が日本の大学 Lebel の大きさと、校舎も大きく、とてもいいなとかんじました。

ASEP に参加したことで、人生に関する視野が広がり、とてもいい体験になったと感じました。また、前回参加した WYM よりも、プレゼンテーションの内容を理解できるようになり、その内容に対する自分の意見を持てるようになりました。

英語科 2年 山内 楓稀



僕は今までこういった活動にはあまり参加してきませんでした。何も起こらない日々で満足して過ごしていました。しかし、ある日ふと思いました。このままでいいのかと、このままこの先も何も起こらない日々を過ごして最後に何が残るのかと。とある歌にこういう歌詞があります。「人間誰もいつかこの世を去る時が来る、だから生きて良かったと思えるような人生を送れ」。僕はこの言葉を思い出しました。そして動かねばならないという衝動に駆られ、重い腰を上げることにしました。こういった経緯で WYM と ASEP に参加しました。

自分から行動を起こせば分かることは沢山あります。自分の英語力の低さ、日本との文化の違いなど。そして最も重要なことを学びました、それは人との出会いです。彼らは僕に様々なことを与えてくれました。これは財産であり宝です。何に変えることもできません。しかし与えられっぱなしだと宝の持ち腐れになります。だからこれをもっと活用し、これからの人生に生かしていこうと思います。



最後に前鎮高校のみなさんありがとうございました。かけがいのない思い出ができました。僕はまた必ず台湾へ行きます。

ありがとうございました。謝謝。

普通科 1 年 山岸久藍

今回の ASEP への参加で私は大きく 3 つのことを感じました。

1 つ目は、自分たちで考えたことをまとめ、たくさんの人に英語で伝えること、そしてそのプレゼンを約 2 日間で同じチームの相手校メンバーと合わせることで

す。

それらはとても難しいものでしたが、同時にやりがいを感じさせるものでした。

プレゼン中にたくさんの動作を取り入れることや、マイクを口から離さないこと

で聞いている人たちにはっきりと伝えることなど、たくさんの工夫を凝らして本番で発揮することができました。



2 つ目は異文化との交流を深めることの大切さです。

ホームステイなどを経て私はたくさん台湾について深く知ることができました。台湾のマナーや文化、歴史等幅広く知ることができました。これらのことから、自分の住む日本のことも改めて考えることができました。

3 つ目は日本以外に友人をつくることの楽しさです。

英語を使うことで外国の友達を作り、英語を使いことでコミュニケーションをとることで、ここまで自分の視野や世界を広げられることに感動しました。

これらの経験は自分の成長に大きく貢献してくれました。これからも英語を使い自分の視野を広げ、たくさんの人と交流をすることで、たくさんの経験をしていきたいです。

A lot of EXPERIENCE in 台湾

普通科 2 年 深澤希唯

今回台湾に行って、一番印象に残っていることは、友達がたくさんできたことです。行く前は、台湾についてプレゼンテーションの練習をして最終日だけ観光する感じだと思っていました。でも、**想像とは違い、ホスト校についたらたくさんの子が話しかけてくれて楽しいこともたくさんありました。**チームメンバーと一緒にご飯を食べに行ったり、クリスマスギフトを交換したり、写真をたくさん撮りました。英語には敬語がなく、年齢関係なく会話できるから、一学年下の子ととても仲良くなれました。



プレゼンテーションの本番は、1 個目の出番はうまくいったけど、2 個目の最後で言うことも内容も分からなくなっていました。練習でうまく言えなかったところはちゃんと言えたけど、いつも言えていたところだったからとても焦りました。いつも言えるところは気にせず練習していたから、緊張したときでも自信をもって言えるくらいもっと練習しておけばよかったと少し後悔があります。本番が終わった後、チームのメンバーが「気にしないで。」と声をかけてくれました。とてもやさしくて良いメンバーに恵まれて、本番もいい思い出になりました。後のパーティーでは、チーム内でも盛り上がったけど、会場の盛り上がりが印象的です。会場内がほとんど知らない人ばかりでも盛り上がる雰囲気「海外きた。」とかんじました。その日の夜は、夜市に行きました。日本の屋台みたいな感じで、人がいっぱい賑わっていて、週に2回あるらしく、羨ましいなと思いました。私の大好きなタピオカミルクティーもビッグサイズで飲めて幸せでした。最終日は、クラスメートのたくさんの人と喋って、笑ってとにかく楽しかったです。

台湾に行って、本当にたくさんの初めてを経験して、とても心に残る思い出ができました。台湾と日本で地理的に離れていても、SNSではいつでもつながっているの、今後も交流を続けていきたいと思います。



私は ASEP に参加し、色々なことを学びました。その中のひとつとして**慣れない環境で慣れない言語で話すことの難しさ**を学びました。日本語で言いたいことがあってもそれを英語に変換して言うと違う意味で伝わってしまったり、咄嗟に反応したいことが咄嗟にできずもどかしい気持ちになりました。4日間を通して咄嗟に反応できなかったことが少しずつできて行くことや、言いたいことを伝えるように話すことがだんだん出来ていくことを感じるのはとても楽しかったです。プレゼンテーションの準備や、本番前には日常会話では使わない単語を言わなければなかったり、理解しなければならない時には辞書が必要でしたが、日常生活で辞書を使うことはほとんどなく過ごせて参加してとても良かったと思いました。プレゼンテーションも初日はどうなることかと思いましたが上手く行き、エキスカッションでは色々なところに連れて行ってもらったり、たくさんの乗り物に乗ったり、日本では経験しないようなことを学ぶことができて良かったです。また機会があれば台湾に行き、会いたいなと思いました。



台湾で感じたこと

英語科 1 年 谷西萌

空港にいた時はあまり台湾にいる実感がなかったけど、空港の外に出てみるととても暑くてそこで実感がわいてきました。

学校に着くと久しぶりに台湾の子に会えてとてもうれしかったです。

台湾の子の中に BTS を好きな子がいて、とても話が盛り上がって仲良くなれました。しかも帰りの空港で手紙をくれたのがすごくうれしかったです。国を超えて愛されている BTS はすごいなと思ったし、話す言葉が違ってても共通の趣味や話題が 1 つでもあるだけでも距離が縮まるのだなと感じました

台湾に行ってみて驚いたことはトイレと交通です。

トイレはまず日本より和式トイレが多いことです。次にトイレトペーパーを流せないところが多いことです。学校に着いて初めてトイレに行ったときにトイレトペーパーがなくて戸惑いました。先生からトイレトペーパーがないところがあるとは聞いていたのですが、まさかこんなにも無いところが多いとは思っていませんでした。衝撃でした。

交通に関しては驚いたことが多かったです。

初めに台湾に着いて思ったことはバイクの数が異常に多いことです。車よりも圧倒的にバイクが多かったのでびっくりしました。あと、皆があまり交通ルールを守っていなかったと感じました。例えば、バイクに乗っている時にヘルメット着用をしていない人がいて日本ではありえないと思いました。それに歩道が無いところが多かったので、後ろからバイクや車が来たときはこわかったです。

ホストファミリーは家族みんな優しくしてくれてうれしかったです。帰るときに家族の皆がまた家に来てねと言ってきてこの家に来てよかったと思いました。私が行きたいところに連れてってってもらったり、台湾で有名な料理を食べさせてもらったのでとても色々な経験ができました。帰るときはとてもさみしかったです。次は日本に来てくれて会う約束をしたのでその時まで楽しみに待っていようと思います。

台湾でさまざまな経験をして、その国についてたくさん知れてよかったです。必ずもう一度台湾に行きたいです。



二年 E 組 森 英恭

ASEP2018

最初に私は ASEP に参加して、とても楽しく、とてもいい経験になりました。

私は中国語を話せるので、コミュニケーションをするのは簡単でした。

私が高雄で一番おいしかった食べ物は、臭豆腐というもので、豆腐を発酵させたものです。それは中国にもありますが、日本にはほとんどないので、とても嬉しかったです。ですが、日本人には臭豆腐の特有の臭さによって嫌いになる人が多いので、ほかの生徒はあまりおいしく思わなかったのが残念です。

プレゼンテーションでは金賞だったのが少し残念に思いましたが二日間の練習ですごい

上手にできたので嬉しかったです。

最後に、この ASEP
プロジェクトによってまた高雄に行きた
くなったので、大学生になったらもう一
回行こうと思います。



～冬の思い出 in Taiwan～

英語科 1 年 米澤琴花

私が今回のプログラムで一番印象に残っていることは夜市です。行ったときに想像していた以上に人が多くてびっくりしました。私のホストファミリーの Celine がすりやひったくりにあうからバックを前にして！といわれ、日本の環境と全く違っていてすこし怖くなりましたが、他国の文化に直接触れることができてとてもたのしかったです！夜市はたくさんの台湾のおいしくて安くて有名な食べ物がいっぱいありました。特に私のお気に入りだったのが、ペコちゃんの会社のスイーツで小さくて丸いドーナツのようなもので、食べてみるとほんのりスイーツポテト風味でほんとに毎日食べたいくらいの味でおいしかったです！



台湾では様々な文化に触れましたが**台湾の食文化が一番大好きです！台湾のタピオカ**は日本のものと比べると1.5倍ぐらい大きくて、**驚きました**。ほかにも、チャイニーズオムレツ、ネギパイ、ビーフヌードルなどを食べました！どれも全部おいしくて最高でした！

!!!!!!SWEE LA!!!!!!

滞在中は、台湾の生徒の子たちに中国語と台湾語を教えてもらいとても中国語に興味が出てきました！



Celine はとても優しくておしゃれでかわいくて面白くて彼女が私のホストで本当によかった、と感じました！今度 Celine たちが日本に遊びに来たときには、たくさんの日本の文化を紹介したいです！

来年も参加して新しい台湾の文化に触れあって、自分の英語力、コミュニケーション力を向上させ、将来に役立てるように積極的に今回のようなプログラムに参加いきたいです！！！！

Gratitude for the meeting 普通科 2 年生 柳原初音

英語で会話すること、プレゼンテーションすること、海外に行くこと、はじめはとても不安だったし緊張していたけど、とても良い経験ができました。

プレゼンテーションのためにみんなで一生懸命練習し、協力し合えたことで本番大きなミスもなく成功させることができました。

練習時間以外には校内を案内してもらったり、私たちが楽しめるよう色々なところに連れて行ってくれて、とても楽しかったです。日本語を教えたり、中国語や台湾語を教えってもらったり、お互いの文化の似ている点や全く違う点を知ることもできました。

ずっと英語で会話するのは少し大変だったけど、普段話さない言葉じゃなくても、相手に伝えようとする、理解しようとするのはとても大切だなと今回 ASEP に参加して改めて思いました。



単語も文法も覚えられていないことが沢山あって上手く伝わらないこともあったけど、自分から話しかけて、お互いを理解しようと努力しながら英語でコミュニケーションをとることがとても楽しかったです。

ASEP に参加して良い意味で沢山刺激を受けたし、外国の同年代の生徒と交流し、1つのものを作り上げる楽しさを感じることができました。

ASEP での経験をこれから先の人生で沢山活かしていこうと思います。

台湾のみんなと過ごした時間はとても濃くて、本当に楽しくて、最終日、みんなと離れるのがとても寂しかったです。

台湾のメンバーにも日本のメンバーにもとても感謝しています。

一生忘れられない思い出ができました。

ASEP2018に参加して本当に良かったです。

I'm looking forward to seeing you again!!

Thank you very much!!



2018 ASEP 英語科 2年 有本 華帆

2日目の夜にホストファミリーが“DIN TAI FUNG”という料理屋さんに連れて行ってくれました。小籠包やエビチャーハン、鶏肉のスープ、小豆入り蒸しケーキを食べました。全部おいしくてとてもお腹いっぱいになりました。小籠包は普通の小籠包と蟹みそ入り小籠包を食べました。両方ともアツアツ肉汁たっぷりで最高においしかったです。エビチャーハンはエビがプリプリで、鶏肉のスープはあっさりしていておいしかったです。私が一番びっくりしたことは、予想以上に小豆入り蒸しケーキがおいしかったことです。フワフワで甘すぎずいい感じの甘さでもっと食べたい！と思いました。しかし、お腹がいっぱいで3口しか食べられませんでした。次、台湾に行くときは必ず一人で小豆入り蒸しケーキを食べ切りたいです。



アンケートから日本の学生生徒の声

すごく楽しかった！ また会いたい！！

初めての海外の親友がキャラで嬉しかった。2年後に必ず会いに行く！

とってもいい体験でした。本当に台湾を出国するのが辛かったです。英語がお互い母国語じゃないからどうなるかと思ったけど、言語が全てじゃ無いんだなと改めて感じました。近いからまた行きたいと思います！ みんなありがとう！

I miss you guys so much....

ほんとに会えてよかった！

とても優しくしてくれて嬉しかったです。

苦勞したからこそ、最高のプレゼンテーションが出来た！最高のチーム！

thank you for giving us good time. love u guys♥

Thank you for helping me! I had a very good time with u guys!

一緒にプレゼンが出来て良かったです！

I had a good time！！ Thank you☺ I want to meet you again☺

Thank you for such a exciting and wonderful days in Taiwan. It was so good experience for us.

We are so happy that we can get in to friends like this. We are looking forward to meet you guys again!

Thank you for your kindness! I became to love 臺灣 more than ever!!

I was a lot of fun! I want to meet you again!

Thank you for your efforts!

It was the special experience in my life♥ Thank you for everything!!!

I had a wonderful time!!

thank you

初めての海外で緊張していたのに皆優しくしてくれて不安に感じることも無く、とても楽しめたし、貴重ないい思い出、経験がつくれて凄く嬉しかったです。ありがとう！！

本当に楽しかった！ 大好き！

楽しすぎてもっと遊びたかったな！

夜の街が綺麗で、人々が皆優しく親切でした。

thank you so much for welcoming us! I had so much fun spending time with you guys.

OTSUKARESAMA~

I'll go to Taiwan again!!

あなたたちは本当に優しくて、面白くて、一緒にいてとても楽しかったです！また会えたらいいな

If you say goodbye I will 生氣

忘れられない思い出をありがとう！

今度があったらまたがんばろうね！

とってもフレンドリーで最初は不安ばかりだったけどとっても楽しい日々を送れました、本当にありがとう！また会える日を楽しみにしてます(*^^*)

Thanks for everything!!!!!!!

今回のプログラムは、結果に関しては悔しい思いが残りましたが、台湾でできた沢山の友達のお陰でいい思い出になりました。短い間だったけどありがとうございました。

Thank you for your greatness

2018 年最高の思い出をありがとう。

みんなといた時間は忘れません！ほんとにありがとうございます！

Thank you all so much it was amazing and unforgettable to work, be friends, hung out with you.
I miss you and hope we will see you soon in Taiwan or Japan :)

我爱你😊❤ thanks for giving us a precious time!!

I can't believe that I could have wonderful friends such as you💞💞💞

台湾ではプレゼン準備だけでなく、休み時間も一緒に観光してくれ、私達日本人がよりよく過ごせるようにとても親切にしてくれた。

Thought spending with you guys and using English, it became the greatest experience that I have experienced. Thank you for everything.

初めての海外の親友がキャラで嬉しかった。2 年後には、もう一度絶対会いに行く！

もっと一緒に居たかったです また ASEP メンバー全員で遊んだり、みんなで遠くへ出かけたいです✧
一生忘れない最高の経験になりました！ありがとう！！

楽しかったです！！またいつか会いたいです。

“おもてなし”の精神をととても感じました。すごくいい待遇をしてもらえて一生忘れない経験になりました。

Thank you for a lot of memories!!/

I miss you guys...!!If I go to Taiwan, can you welcome me??I love youuu♡

ホストファミリーや台湾の生徒が良くしてくれて楽しい思い出ができました

一緒にプレゼンが出来て良かったです

I enjoyed in Taiwan and I'm glad to see you!

I really had good time and it wouldn't have been the same without all of my friends in Taiwan!!

Thank you and I hope to see you one day!

ASEP は私にとって良い経験になった

How to overcome the conflict in the process to complete the Presentation

Yusaku Ito
Nihon Fukushi University

We really appreciate what NSYU students did for us. It's great hospitality

While staying beautiful city, Kaohsiung, students of NSYU always pay attention to our activity. They hosted us perfectly to understand the culture of Taiwan visiting museum or enjoying curatorial nice food at the market.

We deeply appreciate their Taiwanese OMOTENASHI

Conflict resolution

When making presentation, we often faced the same problem to overcome that was caused by differences of communication.

But we respect NSYU students who explained carefully showing solutions.

We challenged the collaborative presentation after doing the slype session several

times in the preparatory online stage.

This was good enough occasion to get acquitted with them.

As for me, English presentation on the stage was first time, so I have failed to speak slowly, it was too quick to get better understanding from audience especially H.S. students.



My images of Taiwan

It drastically changes. Before Taiwan is one of the good country which supply good Chinese food to the tourist.

But now. We could understand that Taiwan is the democratic country that nourish the peoples freedom and civil right after straggling against old political groups.

We could learn 2.28 incident or some democracy movement in Kaohsiung.

We believe this country keep today's freedom and democracy for the Taiwanese people forever.

Special thanks to the organization

We deeply express our special thanks to the person who design and carry out the 19th ASEP.

We could deepen what is crucial to live as a cosmopolitan. Freedom, expectation each other, the sense of inclusive, knowledge of history.

We will cherish the memory we had in Kaohsiung as long as we live and we surely contribute to build the friendship between Taiwan and Japan.

第19屆「亞洲學生交流計畫Asian Student Exchange Program」，一連五天在高雄科技大學、高雄高工舉行，共有來自日本、韓國、泰國、越南、印尼、印度、馬來西亞、紐西蘭與臺灣9個國家、72所學校、900名國內外大學、高中職與國中師生參加，以「與世界做朋友」為主題。

「亞洲學生交流計畫」源自教育部與[高雄市](#)政府[教育局](#)共同指導的AJET計畫，2000年正式於高雄市舉辦首屆活動，應用各國既有的英語資訊溝通科技及人力資源，形成亞洲區域性學生網際網路學習及互訪交流盛會。今年第19屆「亞洲學生交流計畫」由高雄高工擔任總召學校，並由高雄科技大學協辦，活動截至目前累積參加國內外學生已達萬人。

開幕活動今天在高雄科技大學舉行，由高雄市教育局長吳榕峯主持，學生們穿著各國傳統服飾，9國教師代表上台，以自己國家語言向大家打招呼。

吳榕峯表示，ASEP活動結合視訊討論及實體發表，是培養及提升青年學子科技、英語口說及溝通合作能力的交流專案。感謝承辦學校高

My impressions of ASEP

日本福祉大学
杉本 佳希

今回、ASEP に初めて参加させて頂き。中山大學との共同作業の中で多くの事を学び得ることが出来ました。僕にとって海外の人との presentation を共同で作・発表することは三年間の学生生活の中で初めての活動でした。その活動の中で Skype を使った作業、SNS を駆使しての情報交換の方法。presentation 作りの作業の中でお互いを尊重して意見交換を行い、しっかり相手の言うことを聞き尊重する上で自分自身の意見や発想を発信する事が、離れた距離での意識や考えを統一化することが難しい中での作業が、スムーズに進めることが出来た。また、他の

メンバーが WYM などを通して経験豊富なメンバーが多かった為、周りの力を借り成功させることが出来ました。

また、現地での生活や活動では中山大学の学生の手厚い対応のお陰で楽しい時間を過ごす事が出来ました。台湾は歴史的背景などから親日国のイメージが大きかった為、負のイメージは無かったですが。それとは関係なく中山大学の学生の海外参加者に対するおもてなしが、とても親切で気を使ってくれていた為。その行いから私達が海外参加者をもてなす時に見習う部分が多くありました。

ASEP 本番では、多くの参加者の前で発表しました。このような経験も私自身初めての経験なのだった。その事も踏まえ日本にいる時から暇さえあれば口ずさむように練習したお陰で、本番ではミス無く発表できた。また、多くの参加者の発表を見て感じたことは、劇的な発表を通して言葉数が多く発表していることが目立っていた。また orthodox なプレゼンの形式やシンプルなスライドを使用している所より、動きのあるスライドを使っているところが目立ちました。幅広い学生が多い中で注目を集めるためには動きのありパフォーマンスある発表の方が学生に対して注目を集めやすいのだと思いました。そこには、多くのアイディアや様々な世代や国のカラーを見ることができました。

今回の活動全般を通して、ASEP という国際的 presentation に参加できることが出来たことをうれしく思います。そこには上記に述べた通り多くの事を学び得ることが出来ました。また、この経験を活かし。次に他の国を訪れた際にしっかりと歴史的な建造物・博物館に訪れ、日本との関係について学ぶ事の大切さも知る事が出来ました。現地での生活でも大きな商業施設を観光する事も楽しいが、現地のリアルな生活を楽しむ大切さを学びました。また、それが国際的に活動する上で意味のある事で。お互いを理解する重要不可欠な事だと思いました。

ASEP2019

日本福祉大学
丸形理子

・中山の大学生の対応

台湾へ行く前から ASEP の詳細や、会場の写真など送ってくれるなど丁寧に教えてくれた。台湾で会ってから、プレゼン練習だけでなく、台湾のオススの食べ物や場所を教えてくれ、一緒に食べに行きました。観光地だけでなく、ローカルな所にも連れて行ってくれたので、台湾で流行していることや物、同世代の台湾人がどんなところへ行きどんな遊びをしているのか知ることができました。

・プレゼン準備

プレゼンを完成させるまでに、明確なテーマを決め、お互いがプレゼンを確認して分からないところや疑問に思ったことは質問するなどして意見の違いや対立を防ぎました。

・他のプレゼンで学んだ事

ASEP は WYM と同じく、大学生だけでなく高校生もたくさん参加しており、高校生は劇のようにプレゼン発表を行っているグループが多いと感じました。衣装や小道具を工夫して取り入れており、とてもわかりやすかったです。

・台湾へのイメージの変化

今回初めての台湾だったので、はじめはコミュニケーションをとることができるか不安でしたが、中山大学の学生はもちろん、お店の店員さんや駅の職員の方もとても親切で、台湾の方は常に笑顔で私を受け入れてくれました。親身になって話をしっかりと聞いてくれたり、手助けをしてくれたりし、とても親切な人が多いと感じました。

・自分にとって台湾はどんな国か

素敵な友達に出会うことができ、素敵な時間を過ごすことができた国

・中山の大学生、大会を運営した人への感謝の言葉

中山の学生は常に私達のことを考えてくれて、学校もあり忙しいにもかかわらず、私達と長い時間を一緒に過ごしてくれました。そのおかげで台湾ではかけがえのない時間を過ごすことができました。ASEP という大きな大会を運営した人は英語プレゼンテーションに関する準備・運営だけでなく、たくさんの出し物の準備・運営もして頂きありがとうございました。

CLOSE FRIENDS

日本福祉大学 国際福祉開発学部

市川 昇

・中山大学の学生について

私は、中山大学の学生にとっても感謝をしている。彼らと出会えて、友達となれたことが私にとって ASEP から得た一番の収穫だ。彼らは朝ごはんから寝る前まで常に私たち日本の学生と共に行動をし、常に私たちに配慮して行動をしていた。例えば、夜市へ出かけた際には、私たちが見知らぬ地ではぐれないように最後列には必ず一人中山大学の学生がいた。彼らは毎日色々な場所を観光案内してくれた。毎日異なる場所で異なる体験を与えてくれた。おそらく彼らは膨大な時間と労力をかけて、私たちをもてなしていただろう。

また、彼らは一人一人特別な役割で私たちを支えてくれた。Sandy と Jackson は常に冷静で、私たちの遊びとプレゼン練習の間にメリハリを与えてくれた。Edison は場の雰囲気を常に注意して、練習で皆が疲れた時にはギャグを言って皆を笑わせ、皆の疲れを和らげた。Jessica はいつも自ら進んで行動し仕事を請け負った、またアイディアを出しより良いプレゼンができるように尽力をしていた。Jasmine は一番の先輩として、練習とそれ以外の全体によいバランスを与えてくれた。そして、同じチームではなかったが Sean は裏の手続きなどの準備をし、私たちに発表できる舞台を用意してくれた。私は彼らと関わって、私たちのチームのだれ一人が欠けてもいけないと強く思った。

・プレゼン作り

私はプレゼン作りにて、中国語を使わないと決めていた。なぜなら中国語を使えば、自身の英語力の向上に繋がらないからだ。また、中国語は他の日本人学生が理解できないため、中国語では全員が参加しプレゼン作りができないと考えたからだ。そのため、私たちのプレゼン作りには常に英語という壁が常に存在していた。例えば台湾学生が私たちの表現しようとした「Human being」の意味が理解できなかった際には、「Well being」や「Close friend」「Peace」などを使い彼らに説明をし、理解を得た。

・得たものから大切にしたいこと

私の一番の収穫はやはり Close friend だ。それは ASEP のような Face to Face なイベントのおかげだ。私は今回のイベントで Face to Face の大切さを学んだ。このような出会い方で出会った私たちが世界を平和へ導くことが出来ると思う。私たちが作ったプレゼンの最後の一文「We wish to be a bridge across the world」のように世界各国の架け橋となれるように尽力をしたい。

・大会を運営した方々へ

私は、ASEP を経てかけがえのない Close friend をできた。このような機会を与えてくれたことにとっても感謝をしている。ASEP のような Face to Face なイベントがいつまでも続いていけるように願っています。

立命館中学高等学校

台湾研修を終えて H1720 和田彩也巴

12月23日から30日までASEP 台湾研修に参加した。去年も参加していて今回が2回目のASEPの参加になった。高雄女子中学校のメンバーとペアを組み約1週間議論をしながらプレゼンテーションの内容を決めてきた。原稿を何回も読み直し手直しを加えまた覚えての繰り返しで、覚えるのにすごく時間がかかって本番の前日まで必死になって覚えていた。本番、発表の前はすごく緊張したし、原稿が飛んでしまったらどうしよう とすごく不安だった。でも、ペアの子と自分たちの番まで何回も練習を繰り返したり、みんなが「自信をもって」と背中を押してくれたことで今までで一番いいプレゼンができたと思う。

ほかの学校のプレゼンや、自分たちのプレゼン準備・発表を通して学んだことが2つある。1つ目はプレゼンテーション中のパワーポイントの使い方について。このプレゼンを作るうえでたくさん的高雄女子の先生方が携わってくださり、練習を見てくださっていた。練習中に特に注意されたのが、パワーポイントの指し方と間の置き方だった。はじめ私は話すことに必死になってパワーポイントを見ることがあまりできていなかった。パワーポイントは、自分たちのプレゼンをより分かりやすく見ている人に伝えるためのツールで、上手に使えばとても分かりやすいプレゼンテーションになると先生方は教えてくださった。パワーポイントを指したら少し間をおいて、みている人がスライドに注目できるようにする。そこからまた話し始めると内容が伝わりやすいそうだ。教えていただいたすぐはすぐに意識していたことを忘れてしまったり、スライドと立ち位置がかぶっていたりしたけど、何回もやっていくうちに慣れてきてパワーポイントをしっかり使うことができた。ほかのグループの発表を見ていると、スライドを有効活用しているところはわかりやすく内容がよく伝わってきた。

2つ目は表現の仕方について。

プレゼンテーションが上手なグループは、言いたいこと・伝えたいことが明確にわかり聞いていても飽きないプレゼンだった。聞いていても、重要どころや伝えたいことが強調されていることがすごくわかりやすかった。原稿を覚えてただ読むだけではなく、どこを一番伝えたいのか どこを強調したいのかを考えてプレゼンできるようにしたいと思った。

先生には98%パーフェクトと言われた。あとの2%は何が足りなかったのか考えてみた。その原因は2つあると思う。1つ目は、プレゼンテーションを終えた後の質疑応答の時に質問に答えていたのは全て高雄女子の生徒で、私たち立命館の生徒は答えることができなかったこと。プレゼンの出来は良かったけど、この質疑応答で意見を求められたときに私たちは何も言うことができなかったということは、本当にこの内容をきちんと理解できていたのか定着できなかった何かが自分たちの中にあったのかなと思った。このテーマで話し合いをしていくなかでわからないことや引かなかった部分は本当になかったのか もっと内容をしっかり理解したいうえで、自分の意見をしっかり持ってASEPに臨んでいれば、質問に対しても自分の意見を言えたんじゃないかと思った。

2つ目は、話し方について。

私たちは原稿を作るために話し合い、完成させ、ひたすらおぼえてリハーサルをして覚え

なおしてというように原稿を覚えるのにたくさんの時間を割いていたように思う。でも、原稿を忘れてしまったらどうしようとか表現以前にしっかり話せるかどうかの不安のほうが大きかったように思う。自分の言うところの内容がしっかりわかっていれば原稿がなくても堂々と話せるし飛んでしまうという焦りもないと思う。でも、今の自分にはまだまだそんな力もないのでこれからの研修でまずは自分の意見を積極的に発言するということを目指して参加していきたいと思う。

今回の研修で学んだことを次の学校生活にもつなげていき、来年もまた同じ ASEP の舞台で今回発揮しきれなかった力を出し切れるようにしたい。

今回 ASEP 研修を終えて一番学んだと感じたのは、コミュニケーションの大切さだと思います。今回プレゼンを作ったうえで、あらかじめ日本で意見をまとめてきたとはいえ、最終的なプレゼンを作るためには KSHS の生徒たちと協力して話しあわないわけには作れないといった環境でした。プレゼンを作るために自分たちの意見をしっかり相手に伝えないと KSHS の生徒たちの視点や考え方がメインになってしまうプレゼンになってしまい自分たち日本人が参加している意味がなくなるといった感じでした。そこで感じたのがコミュニケーションの大切さでした。お互い第一言語が違う者同士ですが、それぞれが英語を使い、中には僕たち同様英語が不慣れな生徒がいましたが、しっかりと意見を出し合って話をまとめていました。時にはお互い言っていることが理解できず、意見の思い違いがあったりして嫌悪な雰囲気になったりしましたが、お互いがしっかり理解しあおうと努力していたおかげで、よりいっそう KSHS の生徒たちとの絆が深まりました。また、今回の研修はプレゼンテーションがメインということで、それまでの過程で行ったディスカッションなどのおかげでさまざまな英語を学ぶこともできました。



ASEP 感想

横田永吉

今回私は初めて ASEP に参加し、高雄男子の生徒と一丸になって一つのプレゼンテーションを作るという貴重な体験をさせていただくことができました。しかし、大きく分けて3つの反省すべき点をみつけることができた研修でもありました。

1つ目は、高雄に行く前段階での準備不足です。もう少し早く、もう少し多く日本人同士集まっていれば、自分たちのしっかりと確立した意見を高雄男子の生徒にぶつけることができていたと反省しています。

2つ目は、高雄男子の生徒に対しての押しが弱かった点です。初めて意見をぶつけ合った時、自分たち日本人は、自分たちで考えてきた意見を最後まで押し切ることができず、最後は高雄男子の生徒が作成した案でプレゼン作成を進めていくことになりました。その結果、非常に内容の薄いものになってしまい、良い結果を残すことができませんでした。

3つ目は本番への準備不足です。自分たちのチームは、本番を想定した練習の回数が非常に少なく、また前日練習も皆が緊張し、決して良い出来ではありませんでした。そのため、本番ではミスが多く、決して良いとは言えない結果になってしまいました。しかし、反省ばかりしては何も始まらないので、今回の反省を踏まえ、今回は同じミスをする事がないよう努力していきたいと考えました。



ASEP 感想

福井ゆず

私は今回 ASEP に参加できて、また結果を出せてよかったと思います。しかし、私は先生がおっしゃったように完璧ではなかったと思います。まず、原稿を丸覚えで自分で改めて違う文章で伝えられるようになっていなかったことだと思います。リハーサルで何度も詰まる場所の対策で原稿をもう一回読んで自分で作り直してみることが大切だったのだと感じました。

また2つ目に、途中で失敗してしまってもそこでの適応能力が足りなかったのではないかと思います。詰まったときに戸惑ったり、止まると、相手に上手に伝わらないので、うまくごまかして、続けることが大事だとも感じました。

最後に、質疑応答で自分がマイクを持っていたにもかかわらず、質疑応答に答えられなかったことです。自分の意見を即座に伝えられるようにになりたいなと思いました。台湾の生徒さんの回答で上手に丸め込んでいるところもあったので自分も真似したいなと思いました。

今回、プラチナ賞をとることはできましたが、自分の中では後悔があるので、次のときはこれらの反省を活かしたいです。

ASEP 感想

三合ゆうや

私はこの研修での大きなテーマ『Distant Horizons, Close Friends』にそったテーマを高雄の生徒達とディスカッションを通して考え、『ソーシャルメディア』の問題点や利点、改

善点についてプレゼンをしました。

はじめは突然の英語漬けに耳が慣れなくて、他の人に迷惑をかけました。

それが悔しくて、その次の日から積極的に話し合いに参加しようと普段の何気ない会話に入ったりし、英語に耳を慣らしていく努力をしました。

すると、だんだんと高雄の生徒達も心を開いてくれ、コミュニケーションをうまくとれるようになっていきました。協力して完成させたスクリプトはとても良いものになり、思っていたよりも早く覚えられました。

しかし、リハーサルで実際にステージの上に立って発表すると、そんなに緊張していなかったのに、プレゼン全体の時間を気にしすぎて全く上手くいきませんでした。

本番が不安になった私はその日の夜、ホストファミリーに実際にプレゼンを聞いてもらい「時間は気にせず観客に伝えようとする気持ちをもってゆっくり話すことが大切だよ。」というアドバイスをいただきました。

練習では時間配分はうまく出来ていたの、アドバイスを従い本番はプレゼンを楽しもうと思いました。

リハーサルの時にあった焦りがなくなって、話すことに集中できました。しかし、パワーポイントのリモコン操作が上手くいかず、話す内容に対応したスライドを表示することができませんでした。とても悔しい思いをし、リハーサルでパワーポイントの操作方法をもっとよく確認しておくべきだったと反省しました。

私は英語のプレゼンを通して、人前で英語を話す自信がついたと思います。

発音は日本人英語なところもありましたが、ジェスチャーや強弱を用いて、全力で観客に伝えようと努力しました。

自分の力になったことが沢山ありましたが、その分、反省する点も沢山あったので、本番でとても悔しい思いをしました。もしまたこのプログラムに参加できる機会を得ることができたら、次こそはこの反省点を生かし、もっと素晴らしいプレゼンをしようと思いました。

ASEP を終えて 1 年 7 組 33 番 深野 夏生

ASEP を終えて思ったことは、この研修を通して色々な面において成長できたということです。言語の壁を越えて、台湾の人と日本人とで一つのチームになってプレゼン作り上げたという経験はかけがえのないものでした。初めは、言いたいことがうまく伝わらないことで意見が食い違いました。こんなんで大丈夫かなあと思う一日目でした。しかし、英語が得意な仲間が助けてくれて、何とかプレゼン作りを大きな問題なく進めていくことができました。そんな中で僕は周りより英語力が低く、プレゼン作りをする中で役に立てることは多くはありませんでした。そのかわりにスクリプトは完璧に覚えて、できることはやり切ろうと思い頑張りました。しかし、リハーサルではど忘れしてしまい、何故だろうと思いました。練習ではほぼ完璧にできるのですが、人前では頭が真っ白になるのです。どうしたら本番で力を出し切って納得のいく内容にできるかを考えました。結果、練習の仕方に問題があると考え、改善しました。どうい風にかというと、今まで練習の際には見慣れた仲のいい人の前でしか練習していませんでした。そこで、ホストファミリーに頼んでホストマザーの姉にあたる人などに発表を聞いてもらいました。そして、もらったアドバイスをもとに最終日の夜もひたすら練習して自信をつけました。そして、本番は雰囲気を楽しむ気持ちで臨みました。結果は、大成功でした。苦労して作ったプレゼンを発表し終えた時の達成感はひとしおでした。チームとしての心残りとしては機械上のアクシデントでじかんをロスしてしまったことと、プラチナ賞は取れなかったことです。しかし、この後悔は次晴らす機会があるので、その時もっと人の心を動かすプレゼンを作れるように実力をつけていきたいです。

今回の研修ではたくさんの課題を見つけることが出来た素晴らしいものになったと思います。まず、去年2年生の最後の行事であるグローバルサミットで後悔をした話です。僕たちのグループは最初の予選をクラスで行いましたが無事にホールで行う決勝出場権利を得ることが出来ました。その予選ではクラスメイトの前であるということもあり、原稿等もほとんど覚え、ミスなくすることが出来ました。なので、決勝に進めることを聞いてだいぶ心の余裕がありました。また、最終リハ等もしっかりできていたので自信満々に挑もうと強く思っていました。そして当日、私たちの番が来てしゃべりだそうとしました。しかし、それが全然原稿を思い出せないのです。そして、何とか出てきた原稿を読むのですが自信もなく発音はひどく、詰まり、パワポもミスリ本当に最悪なプレゼンでした。今でもあの時のひどさは忘れられません。そんなことがあった僕はこのASEPを通して前回のプレゼンよりもより良いものにします！そして、自分の精一杯の力を出し切るのが今回の大きな目標でした。結果として僕たちのグループはプラチナ賞を取ることが出来ました。自分としては、100%出し切ることができ、何倍も良いプレゼンになったと思っています。なので、今回の目標は達成することが出来ました。しかし、浅川先生がおっしゃっていた通り100%完璧だったかと言われるとそんなことはありません。課題をたくさん見つけることが出来ました。なので、これから高校生になるにあたってこの課題を払拭し完璧なプレゼンをするということが新たな目標になりました。

次に今回のプラチナ賞にたどり着くまでにあった苦労についてです。

まず、2日目の午前中8時前からASEPの会議が始まりました。まず初めにプレゼンの内容について話し合いました。立命は完全に五福に内容を任せていたので当日行って内容を確認しました。しかし、元々あったPPTと合わせてみると内容と合わないのので、一から構成を考え直すことになりました。そこで、私たちはもともとプレゼンの中身について話し合いました。結局、つかみとまとめを任されることになり、一から原稿を作ることになりました。そこで、エリックと僕で、原稿作成の役割分担をしたのですが、エリックのパートの訂正はほとんどなく、僕のパートは直しばかりで先生にいろいろ言われました。しかし、理解しているのも8割しかしていない自分にもものすごく悔しくなりました。その後、直しをしてもらったあと、読み込みに入りました。しかし、そこでも、つまづくことになりました。それは、発音の問題です。僕は中学1年生から英語を本格的に学校で学び始めていて、文法等の勉強はしてきたものの発音は先生から教わるものの独学でここまで来たので、発音が出来ないと先生に言われ本当に苦戦しました。毎回止められ何度も練習しました。また、ジェスチャーも原稿に沿って考えたりしましたが、読むことに必死になり、なかなかできませんでした。そんな中、次に問題が発生します。それは8分を超えるという問題です。みんな、必死にやっていたましたが原稿が思い出せないなどで練習の2日間では8分を切ることはありませんでした。本番でも8分を切ることが出来ませんでした。少しだけ延長したということは12人の頑張りがしっかりと比例している素晴らしいものになったのではないかと思います。

最後に今回の研修を通じて僕の課題は英単語の発音、ジェスチャー、の大きく二つが挙げられました。どちらも、練習の際にはしっかりできていたものの本番ではあまりできませんでした。その原因として、普段の授業等から気を付けていなかったというのがあってと思います。また、普段何も思わずに英語の授業を受けていたために、今回のような研修では特に大切な発音が出来ていないということが起こったんだと思います。そしてジェスチャーもプレゼンの授業の際に何もせずに立ったまましゃべるといったことがあったのではないかと思います。これからは、普段の授業をもっと大切に、自分の反省点をしっかりと見つめ直し、このような最初の場合でつまづかないようにしていきたいと改めて強く思いました。



ASEP 感想文 J3712 古川 紗

今回、私がこの研修に参加しようと思った理由は3ありました。

一つ目は、これまで違う国の人たちと協力して何かをしたことがなく、一度やってみたいと思ったためです。違う国の人たちと協力して何かをするのは初めてで、とても貴重な体験になりました。この研修に行く前は、自分の英語のレベルで議論ができるのか不安でしたが、向こうが大体の内容やパワーポイントを用意してくれていました。そのおかげで、ひとつのプレゼンテーションを作ることができました。また、プレゼンの練習の間は、直したほうがいいところやアドバイスは、思いついたらすぐに言うことができたので良か

ったです。学校で何度もプレゼンはしたことがあったけれど、ここまで練習して、いろいろ工夫してやったことはありませんでした。けれど、高校生のプレゼンを見て、私たちのプレゼンはまだまだだったことが分かったので、自分たちと高校生のプレゼンの動画を見比べて勉強して、また来年も挑戦してみたいと思いました。また、もしもう一度挑戦することができたなら、内容の議論の段階から参加したいと思いました。

二つ目は、様々な国の人たちと交流し、文化や習慣、価値観を学びたいと思ったためです。学校が終わると毎日どこかへホストファミリーやバディがどこかへ連れて行ってくれたので、台湾の普段の生活に触れることができたわけではありませんが、それでも、日本との違いは数えきれないほどあり、毎日驚いていました。考え方の違いもあって、戸惑うこともありましたが、それも新鮮で面白かったです。

三つ目は、英語を話す力を高めるためです。私は、英語という教科は好きで、文法などは得意ですが、いざ話すとなると苦手でした。この研修ではホームステイをするので一日中英語を話さなければいけない状況に身を置くので、英語を話す力を高めることができました。今回は私にとって二回目のホームステイで、一回目は11月から12月の頭にかけてあったAA研修でした。それからあまり時間が経っていなかったので、そこでの反省点に気を付けることができ、一週間を無駄にすることなく過ごせました。AA研修では、何か言うのをためらったり、会話をつなげようと努力しなかったことが多くあり、もっと積極的に会話をすればよかったと研修が終わってから思いました。もちろん、積極的に話す、交流する、ということは最初から心がけていましたが、臆したり戸惑ったり、思うようにはできませんでした。ですが、今回はバディやホストファミリーもたくさん話しかけてくれて、様々なことを話せました。また、この研修を通して、私は自分の英語の発音の悪さを痛感することが多くありました。発音が悪くて英語が通じなかった時や、プレゼンで発音の練習をしている時などです。バディやそのほか台湾のプレゼンのメンバーはみんな英語がとてもうまく、その差を埋めるために英語をもっと勉強しようと思いますが、単に英語を喋れるだけではなく、発音が良く聞き取りやすい英語をしゃべれるように努力したいと思いました。

最後に、この研修を通して、様々なことを学ぶことができ、成長することができました。また、色々なことに対する姿勢も大きく変わりました。このような貴重な体験ができたのはたくさんの人のおかげです。そのすべての人に感謝して、この研修での学びを次につなげていきたいです。本当にありがとうございました。

私はこの研修で初めて台湾という国を訪れました。ホストファミリーと対面後まず最初に驚いたのが、母国語が台湾語であるにもかかわらずみんなすごく上手に英語を話していたことでした。小学生であるホストシスターも本当に流暢に英語を話しており、多少会話はとれるにしろまだまだ不完全な自分の英語力に焦りを感じました。もうこのグローバル社会では、英語が話せて当たり前なんだと改めて実感したので、自分も追いつけるようにもっと英語の勉強に励んでいきたいと思います。

この研修の目玉であるプレゼンテーション大会、ASEP では本当に多くのことを学び、たくさんの刺激を受けました。学校では、本番に向けて台湾の子たちと協力してプレゼンテーションを仕上げました。意見が食い違うこともありましたが、互いに理解し合いながらチームワークを深めることができました。発表練習を進めていく上で私たちが特に重視したのは「わかりやすさ」です。どんな強弱、イントネーション、速さ、発音で話したら聞き手にわかりやすく聞こえるかを模索しながら改善を重ねました。本番は全く緊張することなく落ち着いて自分の言葉を話すことができ、チームでプラチナ賞を受賞することもできました。ただ、まだまだ自分の中でやり切れていないことは多く、もっともっと挑戦と準備が必要だ

なと思いました。今回何よりも感動したのは、高雄女子高級中學と立命館高校女子チームのプレゼンテーションでした。心をつかまれるおもしろい内容、ジェスチャーの自然さ、観客を惹きつける話し方、みていてとても楽しく、わかりやすいパワーポイント。これが目指すべきプレゼンテーションなんだなあと感じかされました。私もあんな風になれるよう、あれを超えることができる高校生になれるよう、今後もASEPやWYMをはじめとする多くのプレゼンテーション大会に積極的に参加し、今回みつけたたくさんの反省点を改善していきたいです。



そして、英語やプレゼンテーションのスキルを上げるだけでなく、今まで出会ったことのない様々な価値観、文化、考えをもった人々と関わり、人間的にも成長したいです。この研修に行くことを承諾してくれた親、本当にお世話になったアニー先生、浅川先生、マギー先生、自分の目標となった先輩方、一週間ずっと一緒だったバディーとプレゼンテーションのチームメンバー、温かく私を受け入れてくれたホストファミリーに心から感謝し、この経験を生かしていけたらいいなと思います。今年の2月にはチームメンバー全員がRGSに来ます。恩返しができる絶好のチャンスなので、熱を入れて準備していきたいです。

名古屋商業高等学校

After the ASEP

Nagoya City Nagoya Commercial High School

Ayame kamei

Asian Student Exchange Program Experience: Before and After

I also made a presentation with students from Taiwan once in summer. When I had students from Taiwan but I could not accept homestay or too much direct interaction with Taiwanese students. But this time we went to Taiwan and were honestly filled with fear of being able to make presentations together and to exchange. However, as a result of actually going to Taiwan, I got courage and took communication, I was able to have confidence in myself and be able to speak positively and express my opinion from myself.

Working with Gushan Senior High School

I was not confident of myself and I was worried about whether I could communicate well even if I go to Taiwan or if I can communicate well. However, as I went to Taiwan and proceeded with my presentation, it was fascinating to make or make ideas that we could not think of. I was able to communicate well by saying proper opinions there. In addition, I experienced homestay for the first time at this ASEP. Before I went there I was worried that I could live well together because of cultural differences. But my host family was a very kind person and very careful in many occasions. I was very happy that I could interact with my students' friends and even through my host family's students.

My thought after experiencing collaboration as a team

I was worried whether I could communicate in the language part as a team including Taiwanese students this time. However, I tried communicating intently by using gestures etc. well where I do not communicate in words. As a result I thought that I got a better presentation. I noticed that such experience would be a very useful experience after coming to society. It is still a very rare experience to create something with high school students and directly with the students from Taiwan. That's why I want to cherish this feeling.

What I thought about the host school and other participants

I think that the event called ASEP was an event that I could have a very valuable experience for me. The foreigner who came from the foreign country like us by being performed in Taiwan could touch the Taiwanese culture directly and was good at all. Furthermore, I feel charm very much at the place that can communicate with the local student while mentioning directly Taiwanese culture.

The Taiwanese school compared the fashion very much in a Japanese big school building and was able to work hard at presentation production easily. I felt that Japan was near and, in culture such as lunch, felt a sense of closeness.

My message to future participants

It is usage of SNS first to be important when the student of the country where it varies in two countries interchanges. In the case of us, many students regarded communication as the student of the partner using SNS (the studio gram that is, for example, trendy, line) It is thought in particular that two SNS is common in the two countries and are used. So I think that it is important to exchange their opinions positively using such SNS if the student of the country of the partner may find an opinion at the time of presentation making. Actually, I pushed forward a story while watching a direct face beforehand using Skype before we went to Taiwan. And I confirmed that oneself should do it. I thought that I was able to make the presentation that might let it go through.

Summary

I experienced ASEP this time and was able to learn a lot. was able to make better presentation with a Taiwanese student by having communicated beforehand using SNS. This ASEP had a good experience for me.



After the ASEP

Nagoya City Nagoya Commercial High School

Ayame kamei

Asian Student Exchange Program Experience: Before and After

I also made a presentation with students from Taiwan once in summer. When I had students from Taiwan but I could not accept homestay or too much direct interaction with Taiwanese students. But this time we went to Taiwan and were honestly filled with fear of being able to make presentations together and to exchange. However, as a result of actually going to Taiwan, I got courage and took communication, I was able to have confidence in myself and be able to speak positively and express my opinion from myself.

Working with Gushan Senior High School

I was not confident of myself and I was worried about whether I could communicate well even if I go to Taiwan or if I can communicate well. However, as I went to Taiwan and proceeded with my presentation, it was fascinating to make or make ideas that we could not think of. I was able to communicate well by saying proper opinions there. In addition, I experienced homestay for the first time at this ASEP. Before I went there I was worried that I could live well together because of cultural differences. But my host family was a very kind person and very careful in many occasions. I was very happy that I could interact with my students' friends and even through my host family's students.

My thought after experiencing collaboration as a team

I was worried whether I could communicate in the language part as a team including Taiwanese students this time. However, I tried communicating intently by using gestures etc. well where I do not communicate in words. As a result I thought that I got a better presentation. I noticed that such experience would be a very useful experience after coming to society. It is still a very rare experience to create something with high school students and directly with the students from Taiwan. That's why I want to cherish this feeling.

What I thought about the host school and other participants

I think that the event called ASEP was an event that I could have a very valuable experience for me. The foreigner who came from the foreign country like us by being performed in Taiwan could touch the Taiwanese culture directly and was good at all. Furthermore, I feel charm very much at the place that can communicate with the local student while mentioning directly Taiwanese culture.

The Taiwanese school compared the fashion very much in a Japanese big school building and was able to work hard at presentation production easily. I felt that Japan was near and, in culture such as lunch, felt a sense of closeness.

My message to future participants

It is usage of SNS first to be important when the student of the country where it varies in two countries interchanges. In the case of us, many students regarded communication as the student of the partner using SNS (the studio gram that is, for example, trendy, line) It is thought in particular that two SNS is common in the two countries and are used. So I think that it is important to exchange their opinions positively using such SNS if the student of the country of the partner may find an opinion at the time of presentation making. Actually, I pushed forward a story while watching a direct face beforehand using Skype before we went to Taiwan. And I confirmed that oneself should do it. I thought that I was able to make the presentation that might let it go through.

Summary

I experienced ASEP this time and was able to learn a lot. was able to make better presentation with a Taiwanese student by having communicated beforehand using SNS. This ASEP had a good experience for me.

Thought the ASEP

Nagoya City Nagoya Commercial High School

Saeka Watanabe

1. Asian student Exchange Program Experience: Before and After

I want to know other country's culture and want to talk with foreign people. so I join ASEP. I have been to Taiwan in school excursion. This was my second trip to Taiwan. This time I felt a lot of impressions than school excursion. For example, the buses stop at the bus station in Japan but we have to make a gesture for stopping the bus in Taiwan. I knew Japanese habit is not usually in Taiwan.

2. Working with Kaosiung Commercial high school

I think it was difficult to practice in cooperation with Taiwanese students. We do practice in Taiwan's school, but we can play volleyball and went to other school and met many Taiwanese student. I enjoyed talk with Taiwanese student in Japanese.

3. My thought after experiencing collaboration as a team

I think I can talk with many people at the first time and we worked hard towards the goal. We have many tough time. Our county and language is difference so I tell my opinion very hard but I was fun when I can tell my opinion. I thought I got many great experience.

4. My reflection on preparation period

We have different thinking but we could make one team with Taiwanese students. I was nerves before the our presentation but Taiwanese student said "take a relax" to me so I enjoyed our presentation, ASEP members and other team dancing together after presentation. When I saw many countries local dance and performance. I enjoyed that time.

5. Tips for team-based international collaborations

I think make presentation is very important but make friends is more important than that. We had something fun we played Taiwanese local game and volleyball and we talked about popular song in each other's country and so on. I think I can get many experience and know deeply about Taiwan. I had great 6days and I want to speak fluently English. My host family was glad when I could understand Chinese so I want to more learn Chinese.



ASEP で得たもの

名古屋市立名古屋商業高等学校 宇佐美瑠奈

ASEP 参加前と参加後の自分の変化

私は、人と協力して何かを作り上げることと、自分の意見を言うことが苦手でした。ですが、発表の準備期間にここをどのようにしたらどう良くなるかなどをみんなで考えて、話し合っているうちに、だんだん楽しく感じ、より良いものを作り上げたいと思い、自分の意見も言えるようになりました。また、人前で話すことに自信が持てるようになりました。ASEPのように人と協力して何かを作る機会があれば参加したいし、積極的に発言していきたいです。

中正工業高校との協働作業や交流の感想

台湾の子たちとも情報を共有しましたが、お互い英語で言っても伝わらないことがたくさんあり、英語を使ってコミュニケーションをとることの難しさを改めて感じました。交流していくうちに自分の英語力の無さを痛感し、もっと英語を勉強して、単語を調べたりせずに話せるようになりたいと思いました。最終日には、とても仲良くなり、人と触れ合うことの楽しさや、大切さを学ぶことができました。

チームで一つのことに取り組んだ経験をどうとらえているか

チームで一つのことをやるのはとても大変でした。台湾の生徒たちは、とてもマイペースで、通しで練習した回数はすごく少なかったです。練習最終日は、先生が声をかけてくれて一日通しで練習できたので良かったです。

ASEP 準備期間をふりかえって

スクリプトとスライドは台湾の生徒たちが、考えてくれて、あとは覚えるだけでした。発表内容をスクリプトを見て自分なりに解釈しました。自分のパートがなかなか覚えられず、悔しくて泣いてしまいましたが、台湾の生徒たちが、大丈夫大丈夫など、たくさん優しい声をかけてくれて、励ましてくれました。

ASEP 直前と本番をふりかえって

本番直前は、とても緊張していました。文を忘れずに言えるか、笑顔でいれるかなどたくさん不安になりました。本番が始まって、自分のパートを言い間違えてしまって、本当に申し訳ない気持ちでした、でも、先生と生徒たちが頑張ったねと言ってきて、本当にASEPに参加してよかったなと思いました。本当にいい経験になりました。



今後の課題

進学後に、国際交流する機会があったら、ASEP の経験を活かして、積極的にコミュニケーションを取りたいと思います。今よりもっと英語を話せるようにしたいです。

ASEPに参加して

名古屋市立名古屋商業高等学校 加藤千佳

1. ASEP 参加前と参加後の自分の変化

ASEP 参加前は台湾の生徒との交流がとても楽しみで正直不安の気持ちはありませんでしたが、実際に現地へ行って日本語が通じない場所でコミュニケーションを取るとは自分が思っていた以上に大変でした。自分の英語力のなさをとても痛感しました。ですが、今自分が使える範囲の英語やジェスチャーを使い相手と話すことはとても楽しかったです。なので、もっと英語や中国語を勉強して、多くの人と交流できるように頑張りたいと思いました。

2. 高雄商業高校との協働作業や交流の感想

高雄商業高校の生徒は英語を流暢に話すことができ、プレゼンを作るのも率先してやってくれました。台湾に行く前からSNSを使い意見交換をし、プレゼンの作成を進めていきました。現地についてはジェスチャーなども加えながら練習をしました。練

習以外にもバレーやゲームと一緒にし、仲良くなることができました。そのおかげで本番では高雄商業の生徒と息を合わせて発表することができました。

3. チームで一つのことに取り組んだ経験をどうとらえているか

私はASEPに参加して高雄商業の生徒にとっても刺激を受けました。高雄商業の生徒は積極的に発言やアドバイスをしてくれ、私たちを引っ張ってってくれました。プレゼンの発表の仕方もとても堂々としていて上手で、練習中には私ももっと頑張ろうと何度も思わせてくれました。チームで一つの作品を作るのは簡単なことではなく、大変なこともたくさんありましたが、高雄商業の生徒と一緒に取り組んだことはとてもいい経験になりました。

4. ASEP直前と本番をふりかえって

本番までに合同で練習する期間は二日間しかなかったなのでその二日間でたくさん練習をしました。ジェスチャーなども多くあったので、高雄商業の生徒と息を合わせることを心がけて頑張りました。本番前はとても緊張しましたが、高雄商業の生徒が「がんばろ！」と何回も声をかけてくれて緊張が和らぎました。また、私たちの名前が呼ばれたときに高雄商業の生徒と韓国の生徒のチーム、先生方が盛り上げてくれてとても嬉しく、気合が入りました。

5. ASEPというイベントについて

ASEPではいろんな国の生徒が集まり交流ができるので、私たちと同じくらいの年齢の生徒が英語を流暢に話しているのをみてとても刺激を受けました。また、ASEPはWYMよりも規模が大きく、演出も豪華で他国の生徒が発表しているのを見て様々な国の文化を知ることができました。他国の生徒みんなで歌ったり踊ったりもし、とても楽しく一生の思い出になりました。

6. まとめ

ASEPに参加して高雄商業の生徒と共同でプレゼンを作っていくことでもっと英語や中国語を喋れるように頑張りたいと思いました。また、ホームステイの経験をして台湾の文化をもっと知ることができました。ASEPは終わってしまいましたが今回仲良くなった台湾の生徒と今後も連絡を取り合い仲良くしていきたいです。



ASEPで得たもの

名古屋市立名古屋商業高等学校 粥川里帆

1 ASEP参加前と参加後の自分の変化

私は、ASEPに参加しました。ASEPの参加前と参加後では、仲の良さが変わったと思います。参加前は、緊張して名前も覚えられないくらいでした。でも、参加後は、一緒に練習していくうちに名前もちゃんと覚えてたくさん会話をすることができました。知っている歌手やお菓子、など台湾の生徒はたくさん日本のことを知っていました。ですが、私は台湾のことをあまり知らず、もっと勉強しようと思いました。

2 鼓山高校との協力作業や交流の感想

台湾の学校と交流は、私が WYM で知り合った子やホームステイ先の子の友達と会うことができてすごくうれしかったです。ホームステイ先の子のクラスメイトに写真立てと一緒に撮った写真にメッセージを書いてくれました。写真立てにはあなたは私のスイートハートと日本語で書かれていてとてもかわいいと思いました。他にも、台湾のお菓子をくれたり、写真を撮ったり、一緒にクリスマスプレゼント交換をしました。



3 チームで一つのことに取り組んだ経験をどうとらえているか

チームで取り組んで協力してやることで達成感を得ることができました。WYM とは違い日本人のほうが少なく、不安なことが多かったですが、私のわからない単語や、発音を教えてもらい、私と一対一で練習をしてくれました。

4 ASEP 準備期間を振り返って

ASEP に参加することで、他国との交流を深めることの大切さや自分の考えていることを英語で伝えると難しいこと、自分の英語をもっと上達しなければいけないことの課題を見つけることができました。WYM で友達になった台湾の子ともっと仲良くなることができました。ASEP, WYM に参加しなければ出会うことはできなかったと思います。参加することで友達が増えたとし、友だちが増えたことで Instagram などを使って英語でやり取りをして英語を学ぶことができます。

5 ASEP というイベントについて（主催校、他行への感想）

今回の参加で私ができたと思ったことは、いろいろな人とコミュニケーションを取っていろいろな話ができただけです。多くの人と話すことはとても楽しいです。私の知らないことや食べ物、一緒にボーリングをすることでとても楽しい日々を送ることができました。できなかったことは、もっと英語や中国語でコミュニケーションができなかったです。もう少し中国語を勉強しておけば、ホストファミリーのお母さんやお父さん弟と話ができ、最終日にはたくさんの感謝を伝えられたと思います。次に会った時は、携帯を使わず、翻訳機を使わずにコミュニケーションを取れるようにもっと勉強したいです。まだ連絡を取っているなので、会いたいと思います。ASEP に参加することができてよかったです。私の高校生活での良い思い出を作ることができました。すごく楽しかったので、ASEP 一日目に戻りたいです。

6 今後の課題

もう少し英語を頑張って、翻訳機などを使わずにコミュニケーションを取りたいです。ここで出会った友達と卒業してからも連絡を取り合って、会ったり、一緒に遊んだりしたいです。参加することができてよかったです。

ASEP を終えて

名古屋市立名古屋商業高等学校 亀井彩萌

ASEP 参加前と参加後の自分の変化

私は夏にも一度台湾の生徒と一緒にプレゼンを作り交流をしました。その時自分は台湾から生徒を待つ側だったりホームステイも受け入れできずあまり直接台湾の生徒とも交流ができませんでした。しかし今回は私たちが台湾に行って一緒にプレゼンを作り交流をするということなので正直不安でいっぱいでした。でも実際行ってみて勇気を出してコミュニケーションを取ったりした結果自分に自信を持つことができ、自分から積極的に話しかけたり意見を言うことができるようになりました。

鼓山高校との協働作業や交流の感想

私は自分の言語力に自信がなく、台湾に行っても言語が通じるか、うまくコミュニケーションがとれるかなどの不安がありました。しかし台湾に行きプレゼンを進めていくうちに私たちでは思いつかないようなアイディアなどをだしてくれたり、作っていて面白かったです。そこでもきちんと意見を言うことができコミュニケーションがとれました。さらにこの ASEP で私ははじめてホームステイを体験しました。行く前は文化の違いなどでうまく一緒に生活できるのかなと思っていました。しかし私のホストファミリーはとても優しい人で多くの場面でとても気を遣っていただきました。ホストファミリーの生徒を通してその生徒の友達などとも交流が十分にできてとてもうれしかったです。

チームで一つのことに取り組んだ経験をどうとらえているか

今回台湾の生徒を含むチームということに私自身言語の部分でコミュニケーションがとれるかどうか不安でしたが言語でうまく伝わらないところはうまくジェスチャーを使うなどして意思の疎通を図りました。その結果よりよいプレゼンができたと思いました。このような経験は社会に出てからとても役に立つ経験になると心から思いました。ましてや高校生で台湾の生徒と直接、一緒にチームでなにかをつくるということは普通簡単にできる経験ではないと思うのでこの気持ちを大切にしていきたいです。

ASEP というイベントについて

ASEP というイベントは私にとってとても貴重な体験をすることができたイベントだと思っています。まず台湾で行われているということで私たちのような外国から来た人達が台湾の文化などに直接触れることができることがとてもいいと思いました。さらに台湾の文化に直接触れながら現地の学生ともコミュニケーションをとれるところにもとても魅力を感じます。台湾の学校は日本と比べてとても校舎がとても大きく、伸び伸びとプレゼン制作に励むことができました。給食などの文化も日本と近い感じがしてとても親近感を覚えま

した。

今後参加する方へのメッセージ

まず、台湾と日本という二国の違う国の生徒達が交流する際にポイントになってくるのが SNS の活用方法です。私たちの場合、多くの生徒がインスタグラム、LINEなどのSNSを使って相手の国の生徒とコミュニケーションを図ったり、意見交換としてしていました。特にその二つのSNSが両国で共通して使われていると思われます。なので、相手の国の生徒がプレゼン制作の際に意見を求めることがあったら積極的に自分達の意見をそれらのSNSを使って伝えあうことが重要だといえます。実際私たちが相手国に行く前には事前にスカイプを使って直接顔を見ながら話しを進めたり、自分たちがすべきことなどを確認しました。それらがああってこそいいプレゼンができたと思いました。

まとめ

私は今回 ASEP を体験して、たくさんのことを学ぶことができました。事前に SNS などを使ってコミュニケーションをしていたことで台湾の生徒とよりよいプレゼンを作ることができました。今回の ASEP は私にとって将来にとって、とてもいい経験になりました。



ASEP で得たもの

名古屋市立名古屋商業高等学校 神山亜弓

1 ASEP 参加前と参加後の自分の変化

私は昨年の夏休みに毎年日本で開催される WYM というものに参加しました。ASEP に参加をする前までは WYM と同じような感覚で英文を覚えて練習を淡々とこなせばいいと思っていました。ですが、実際は全然違いました。まず、台湾で開催され、アジア各国の人たちが集まって行われるので、私たちが母国語としている日本語よりも、公用語とされている英語を使うことが多かったです。そのため、練習や本番でも常に英語でコミュニケーションを取る状態で、頭で考えて発言するよりも、自分の思いをすぐに英語で発言する力が身についたと思います。

2 中正工業高校との協働作業や交流の感想

中正工業高とチームを組んで取り組んだ私たちは、自分の学校から参加できた生徒が2人と、他のチームよりも少なく不安もありましたが、全体で合わせるだけでなく自分だけで文を覚える時間も設けてもらえたので集中して取り組むことができました。また、練習中には文を覚えることに苦しんでいる仲間に、中正の生徒が優しく声をかけているところを見ました。私自身も本番前に緊張している時、なんども声をかけてもらいました。そのおかげで無事に本番を迎えることができ、台湾の高校生の優しさを感じることができました。

3 チームで一つのことに取り組んだ経験をどうとらえているか

ASEP を終えて、同じ目標を持って一つのものを完成させることは簡単なことではないと改めて感じました。母国語も違い、お互いの意思がうまく伝わるかわからないこともあり、プレゼンを完成させるのは余計難しくなると思いましたが、自分で考えるという経験ができてよかったです。結果は良いものではなくても、同じ仲間としてどう支え合い、どう高め合ってどう本番に臨むのかをそれぞれ考えて、最後にはやってよかったと思えるものにするのが大事だと思いました。



4 ASEP 準備期間を振り返って

ASEP の準備は、ほとんど台湾の生徒たちに頼りっぱなしでした。台湾に行く前には、ラインやインスタグラムを使ってコミュニケーションを取り合い、プレゼンの作成をしていました。インターネットが普及して便利にやり取りできることはいいことだと思いましたが、文だけじゃ上手く伝えられない思いや、英語で話さなければならないこともあり、自分たちの意見を積極的に出せなかったと思いました。どんな人と組んでもそうですが、チームで何かを作り上げるとなると、自分の意見や思いをしっかり持って相手に伝えなければ納得のいくものはできないのだと感じました。

5 ASEP というイベントについて(主催校、他校への感想)

ASEP の会場の盛り上がりや、熱狂は日本では簡単に感じることはできないものだと思います。主催校の生徒たちのパフォーマンスやみんなで踊って同じ空間で同じように盛り上がって交流する場面を積極的に入れたりして、多くの外国人がオープンマインドを持っていることを感じることができました。私は、今回のエイセップに参加をして、様々な国の生徒たちが集まっていますが、国関係なしにお互い交流することの楽しさを知ることができました。

6 結論・今後の課題・決意

海外でのホームステイの経験や ASEP を終えて、私は外国人とコミュニケーションをとるときに翻訳ソフトを使わずに話せるようになりたいと思いました。そのためには、英語で話すことを恥ずかしいと思わない気持ちも大事だし、なによりも、実際に外国人と話す機会を多くすることが大事だと思います。これから先、国際交流ができるチャンスがあれば積極的に参加していきたいです。

ASEPを通して

名古屋市立名古屋商業高等学校 進藤捺希

1 ASEP参加前と参加後の自分の変化

今回ASEPに参加させていただき、参加前はWYMに参加していたので、向こうでも似たようなことをやるはずだから大丈夫だろうと、あまり不安はありませんでした。ですが、参加してからは痛いほど英語がどれほど大切か痛感させられました。たくさんの方、日本の高校生・大学生は、母語じゃない英語をスラスラと話す姿に自分ももっと頑張らないといけないと気付かされました。

2 鼓山高校との協同作業や交流の感想

私たちのグループが台湾に行く前は、主にS k y p eを通して、連絡を取り合っていました。いざS k y p eで連絡を取り合うと、まず英語聞き取るのに一苦勞で、また話すのにも時間がかかり行く前から不安でいっぱいでした。回数をやってもなかなか慣れず向こうに行ったらどうなることかと思っていました。ですが、向こうに行ってしまうと、鼓山の生徒の子たちがアイデアや積極的に話しかけてくれたおかげで、私たちも頑張って伝えようという気持ちが湧き伝えようという気持ちになりました。

3 チームで一つのことに取り組んだ経験をどうとらえているか

最初は、原稿を見ながらまず通してやってみるとやっている私たちもプレゼンテーションに揃ってないなと感じる場面がありました。練習も長い時間同じことの繰り返しでこんな感じで大丈夫なのか？と不安を抱きながら、練習していました。練習中にいろいろな方に私たちのプレゼンテーションを見て頂く機会があり、そこで意見をもらいこうした方がよくなるんじゃないと意見を交換するようになりました。それが発表の時には生かされて上手くいってよかったと思いました。

4 ASEPというイベントについて

ASEPというイベントはWYMとは180度違うものだなと感じました。特に閉会セレモニーがすごく雰囲気の良い感じで、舞台上で踊ってる人たちを見て、アジア地域の人たちみんながみんな知りも知らない曲に合わせて見よう見まねで踊っているんです。しかも、それで盛り上がってアンコールもしたりして、また、国ごとで踊っていて、日本の曲だったり、知っている韓国の曲だったり、私は個人的に楽しかったなと思いました。いろいろな箇所がWYMとは違って新鮮で面白味がありました。

5 今後参加する方へのメッセージ

まずは、積極的に取り組んで欲しいと思います。私自身、もう少しこういうことを伝えればよかったなと思いました。そして帰ってきてから、もう少しいろいろなことを話しておけばよかったと感じる場面もありました。なので、次参加する方にはそういう思いを少なくしてもらいたいと思います。ですが、やはり1番は自分自身が思いっきり楽しむことだと思います。私も楽しんだおかげで参加出来て改めてよかったと思いました。

6 まとめ

今回参加して、たくさんの人といろいろな形で交流できたと思います。なので大学に進学してももしこういう形のイベントだったり、海外の方と話す機会があれば積極的に交流していきたいと改めて思いました。私は、なのでこれからも英語を学び続けて、たくさんの人たちと自分の考えて話した英語でいろいろな方と交流したいと思います。

ASEPに参加して

名古屋市立名古屋商業高等学校 杉本瑠奈

ASEP参加前と参加後の自分の変化

ワールドユースミーティングの時とは違い今回は自分が海外に行ってホームステイをして過ごすということでちゃんと自分の英語が伝わるかなど不安がたくさんありました。ですがホストファミリーや現地の子が優しく接してくれて不安が一気に吹っ飛びました。修学旅行の時とは違い台湾のローカルな部分を見ることができ、さらに台湾のことが好きになりましたし、もっと知りたいなと思いました。また、さらに英語を上達させてもっとたくさんの外国人と話したいと思いました。

鼓山高校との協働作業の交流の感想

実際に現地に行く前にスカイプを使いプレゼンテーションの打ち合わせや自己紹介をしました。そのおかげで現地に行ってからスムーズに交流することが出来ました。立ち位置などの変更について話し合う時には鼓山高校の子が積極的にアイデアを出してくれたり、私達もアイデアを出すことで練習を始めた頃より格段に良いプレゼンテーションをつくることができました。ですが辞書に頼ってしまった場面が多々あったので大学でさらに英語を勉強してまた外国に行く機会があれば積極的にコミュニケーションをとれるようにしたいと思います。

チームでひとつのことに取り組んだ経験をどうとらえているか

言語の違う人同士でひとつのものを作り上げるということが大変であるということと同時にとても達成感のあることだということを経験することが出来ました。特にプレゼンテーションを修正する時には思うように言葉が思い浮かばず、つまづいてしまうことがありましたが、鼓山高校の子がフォローしてくれて何とかまとめあげることが出来ました。台湾の子がフレンドリーに話しかけてくれたおかげでプレゼン以外の話題で盛りあがることができました。

ASEP準備期間をふりかえって

最初に話し合いをしたときは Skype を使って交流をしました。始まったときはお互いに緊張していてなかなか話が進みませんでしたが、自己紹介をした後はスムーズにプレゼンテーションのことにについて話し合うことができました。ですが向こう側の言うことを聞き取れないことがあり、戸惑うこともありこんな状態で現地に行っても大丈夫かという心配がありました。ですがそんな心配はすぐに吹っ飛んで現地ではたくさん練習や交流をすることができました。

ASEPというイベントについて

違う国同士がチームを組んでプレゼンテーションを作ったり、ホームステイをして交流を深めることができることはもちろんですが、特に驚いたのはそれぞれのチームの発表を見るときに、違うチームなのに歓声などを言っている人がいてそれもありプレゼンテーションが盛り上がっていてとても見ていて楽しかったですし、プレゼンテーションをより理解することができました。記者会見や最後の各国のパフォーマンスでは、それぞれの国の伝統的な踊りや流行を知ることができ違う国の人同士でもひとつになって楽しむことができるととても楽しいイベントだと思います。

まとめ

今回ASEPに参加して思ったことは英語でコミュニケーションをとるということはとても楽しいということです。ですが自分の思ったように言葉が出てこず、スムーズに話すことができなかったのも大学ではさらに英語を勉強してさらに外国人との交流を深められるようにしたいと思いました。



色々なことに出会った6日間

名古屋市立名古屋商業高等学校 大橋繭都莉

ASEP参加前と参加後の自分の変化

ASEPに参加すること自体直前になって迷って、お金もかかるし冬休みもなくなるので行くか迷いました。なので参加前はそこまで楽しみではなかったし、何も考えずにただその日が来るのを待っていた感じでした。なので荷造りも前日の夜にやりました。練習初日、私たち日本人はみんなスクリプトを覚えていませんでした。でも台湾の同じチームの子たちは全員しっかりとすでに覚えていたし、そこで自分たちの今のレベルではだめだと思い頑張ろうと思いました。最終日になるとどういう言い回しをしたら伝わるのか少しでもコツをつかみ伝わるのがうれしくなってもっとたくさん会話をしたいと思うようになりました。

鼓山高校との協同作業や交流の感想

練習ではうまく意思疎通ができない場面がいくつかありました。どうしても通じないときは翻訳アプリを使ったりしていましたが、翻訳アプリで翻訳した言葉はうまく翻訳されていない場合が多く伝わらないことがあって大変でした。そういう場合は、違う単語で言ったり、身振り手振りを使って伝えました。でも、チームの台湾の生徒はほぼみんな英語を流暢に話せるので刺激を受けました。

チームで一つの事に取り組んだ経験をどうとらえているか

チームで一つの事に取り組むということはもともと好きで、やり遂げた時の達成感が大好きです。一つの目標にみんなで取り組むということは国が違って、言語が違っててもできるということを身をもって感じる事ができました。こういうことをするとき

大切なのは、自分の積極的な行動や相手を考える気持ちだと思います。もっとこうしたらいいんじゃないか、あの子はどう思っているか聞いてみよう。など自分から考えて行動を起こすことに意味があり、そこからたくさん枝分かれして最後の本番では花を咲かせられるのだと思います。

ASEPというイベントについて

ASEPというイベントは私が思った以上に楽しめたプログラムでした。私のイメージではただただプレゼンを発表しあう場だとしか思っていませんでした。でも本番では、みんなで踊ったり、民族芸や民族衣装を披露する場面があったりととても楽しかったです。一緒にチームのみんなとたくさんプレゼンの練習をすることも大切だと思いますが、みんなで踊ったり歌ったり写真を撮ったりできる機会がたくさんあってそういう場面でも仲が深まり大切な時間になったと思います。



今後参加する方へのメッセージ

最初、私は参加するか迷っていました。でも今ははっきりと自信をもって本当に参加してよかったと思っています。私は今回ASEPに参加して自分に自信を持つことができました。外国で6日間も過ごしてホームステイで周りにいつもいる友達がいない環境の中でやっていけるのか、本番成功させることができるのか、とても不安でした。でも自分にも成功させることができました。それに人生の中でこんなにも濃くて充実した6日間はないと思うほど充実した時間を過ごしました。やっぱり何事も挑戦してみないとわからないと思います。自分にもできるという自信がつくし、もし失敗したとしてもその悔しさをばねにまた挑戦できますし、失敗ばかりでなにも学ぶことがなかったなんてことには絶対にならないプログラムだと思います。

まとめ

私は本当に参加してよかったと思っています。今後は今回の経験をきっかけに、こういうプログラムや小さなイベントなどに積極的に参加しようと思います。新しい自分を発見して、英語力や経験を磨いて自分にもっと自信を持てるようになりたいと思います。

ASEP を通して

名古屋市立名古屋商業高等学校 渡辺彩恵華

1. ASEP 参加前と参加後の自分の変化

私が ASEP に参加しようと思った理由は、母国語以外での会話・他国の文化を知りたかったからです。台湾は、修学旅行で一度だけ行ったことがありましたが、修学旅行では感じれなかった台湾ならではの感覚などを感じることができました。例えば、日本ではバス停では当たり前バスが止まりますが、台湾ではジェスチャーをしないと止まってくれなかったり、日本では当たり前のことが他国に行くに通じないということを知りました。

2. 高雄商業高校の協働作業や交流の感想

台湾の生徒たちが中心にやってくれて、自分たちはそれについて説明してもらいジェスチャーなど息を合わせて行うのがとても難しかったです。高雄の学校では練習だけでなく、ASEP メンバーでバレーをしたり、ほかのクラスに交流史に行ったり、ASEP に行かないとできない経験をしました。台湾の生徒たちから日本語で話しかけられたりしてとても楽しかったです。

3. チームで一つのことに取り組んだ経験をどうとらえているか

チームのみんなで一つのことに取り組んだおかげで、初対面の人とコミュニケーションをとることができ、そしてみんなで一つの目標に向かって頑張り、とてもつらい時もあったけど、チームのみんなで支えあいながら最後まで取り組むことができてとてもいい経験になりました。国が違い文化も違うし、言語も違うから自分の思ってる事、考えてることを伝えるのが難しかったけど、伝わったときはとてもうれしかったです。

4. ASEP 直前と本番を振り返って

ASEP 前日には、ジェスチャーもセリフも息を合わせて行えるようになり、本番を迎えました。プレゼン直前の時とても緊張していると、チームメイトの台湾の生徒が、リラックスリラックスと声をかけてくれて本番は楽しんでプレゼンをすることができました。プレゼンの後には国関係なしに、みんなで踊ったり、各国の伝統的な舞踊などみることができてとても楽しい経験になりました。

5. 二国での国際コラボレーションを進めるためのヒント

プレゼンを作ることも大切ですが、私たちはチームのみんなで台湾の伝統のゲームをしたり、日本の歌を教えたり、練習だけでなく遊びなどを通じて中を深めることも大切なことだと思います。お互いの文化について教えあったり雑談などとにかくお互いにコミュニケ

ーションンを取ろうとすることが大切だと気づきました。

6. 今後参加する方へのメッセージ

ASEP ではプレゼンをするだけでなく、他国の生徒と仲良くなることで日本以外の文化や言語を遊びなどを通して学ぶことができ、学校では習わないことや現地に行かないとわからないことなどたくさんの経験ができます。そして、日本にいただけでは感じられない現地の感覚や現地の人の風習日本とは違う点など気づくことができ、ホームステイはとても緊張しますが、本当にかげがえのない貴重な経験をすることができます。

とても濃い6日間を過ごすことができ、もっと英語で話せるようになりたいと思ったし、ホストファミリーがわかる中国語を話した時に反応するだけでとても嬉しがってくれて、中国語をもっと勉強してもっと喜ばせたいと思いました。

7. まとめ

ASEP を通じてコミュニケーションの大切さ自分の気持ちを母国語ではない言葉で伝えることの大変さを改めて感じました。日本とは違う文化を感じることができ、貴重な体験ができた6日間でした。

また参加する機会があったら参加したいです。

継続する国際協働プロジェクトの為に

林 道雄

石川県立金沢向陽高等学校

一つの国際協働プロジェクトを長年に渡って継続させる事は、容易な事では無い。決して、毎年同じ事を繰り返して居れば良いという事にはならない。それは現状維持にすらならない。其処には二つの観点が有ると考えている。

一つ目は、技術や手法の変化である。例えば、プレゼンテーションのツールは、ポスターセッションからパワーポイント、プレジなどの様に変化し、授業方法も、チョークアンドトークから、アクティブラーニング、主体的・対話的で深い学び、等の様に、年毎に変化して行く。インフラも、コミュニケーションの方法も変わって来ている。プロジェクト自体の主旨や目的はブレさせず、それらの手法の変化に臨機応変に対応して、実施して行かねばならない。

二つ目は、プロジェクト自体の進化である。現状維持でマンネリ化させる事無く、年毎に、検討→準備→実施→振り返り、を繰り返す事で、主旨や目的を再確認し、問題点を洗い出し、さらに上記の様な新しい手法を取り入れる事で新たに可能となるコミュニケーションを分析し、より良いプロジェクトの運営へと進化させて行かなければならない。

私は、この二つの事を明確にする為には、年毎のプロジェクトの成果を整理、保存し、それを教師が自由に参照出来る様にする事が大切であると考えている。その膨大な資料の中から、運営手法の変化、発表者とオーディエンスとの質疑応答の方法や、プレゼンの評価の方法の変化、それらに因る、各参加校の生徒達の変化、プロジェクト全体の成果の変化、などを検討する事で、これからのプロジェクトの手掛かりを見付ける事が出来る。

「保存する」為の方法も、常に変化している。主流となる動画メディアの種類が変化したり、かつては無料であったサービスが有料になったり、突然、サービスの内部仕様が変更されたり、セキュリティの条件が厳しくなったりする事もよく有る。そうした変化の中で、より多くの参加者が、長期間に渡って安心して利用出来、変化にも、適宜対応出来る様なシステムを構築しなければならない。日本側では、継続して、影戸先生の WYM の公式サイト補助として、私は参加者向けのサポートサイトを運営している。現在、台湾側の公式サイトは無くなっているが、ASEP と WYM を一つながりの協働活動として継続させる為に、双方で検討すべき点や成果などを共有し、残して行ければ、と願っている。